

へんとうばこ  
弁当箱

この弁当箱は、薄い木の板を曲げてその合わせ目を木の皮などでつないで作った「曲げ板」と呼ばれるもの一種です。外で仕事をする人などが主に使ったので、蓋を持ち上げればご飯をより多く入れることができるように蓋が深く作ってあります。さらに、ご飯が冷めないように蓋で作った入れ籠などにに入れて持って行くこともあったようです。

「持ちやすい大きさでありながらご飯がたくさん入り、しかもおめにくい」という発想は現在のランチジャーに生かされていると言えるでしょう。

I-2-5-a



(実物展示)



ランチジャー

I-2-5-b

これなあに？

I-2-3-a

～今ではもう使われなくなってしまった道具～

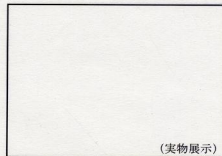
昔の道具の中にはその名前も使い方も忘れられてしまったようなものもあります。しかし、それらの道具にはそれを作った昔の人たちのすばらしい知恵と工夫が詰まっているのです。

I-3

どららん  
胴乱

胴乱は産婦を入れて持ち歩くための産具です。このあたりでは「どらんこ」と言われたようです。産婦は産後しばらくの間は産道を入れ、新しい入れ物には産後の産婦を入れました。産婦を扱うと西には産婦入れから産婦をつまんで取り出し、産道に詰めて置きました。昔の入々の産道は産物が無通だったので、この胴乱を産物の形に作って持ち歩き、仕事の合間や夜間などで一段しました。やがて、産婦の産を産で置いたらのような「産道産婦」になり、産道で産婦を扱う事はすっかり見られなくなりました。

I-3-1



(実物展示)